

(様式3)

事業所名 斑尾の森 グループホームふるさと

ユニット名 もみじ・さくら

作成日: 令和5年1月11日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】				
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容 目標達成に要する期間
1	13	コロナ禍の為、2～3年の間、研修等への参加は控えている。職員の中には介護経験がなく入職される者もある為、不安が大きいと思われる。また、介護技術は日々新しくなり、情報が古くなってしまうことが心配される。	様々な媒体を利用した研修への参加で、最新の介護情報入手し、学ぶ機会を持ち、職員皆が同じ目線での支援をして行く。	・昨年導入したZoomを利用した、会議、研修への参加 ・動画を利用した施設内研修 12ヶ月
2	29	地域資源である近隣の方の高齢化が進み、道で会うこともまれ。そんな中での地域資源の活用が計画出来ていない。加えて新型コロナのまん延で、地域の小学生との交流・外出は計画できていない。(地元の小学校は昨年一つに統合し、離れている)	新型コロナの鎮静を待って、互いの安全が確保された際に、交流を再開したい。それまでの地域資源の活用として、近隣に畑を持っている方と何かしらの接点を持って交流につなげたい。	地域で育てた花苗が毎年配布される。例年職員が植えて、利用者には見て楽しんで頂いていたが、植えるところから参加して頂き、地域の役員の方の来訪時には話題にして頂く。また、散策の際周りで農作業をされている方と話す機会を作る。 12ヶ月
3	35	災害時にどのようにどこに避難すればよいのかが全職員に周知されていない。	年2回の防災訓練の際、避難誘導を実際を行う。避難誘導先は職員全員が把握している。	・防火管理者の指導の元、施設職員が計画の下案を作る。 ・避難誘導のマニュアルの見直し 避難先を掲示 12ヶ月
4	40	前回の外部評価の際に、「利用者と職員と一緒に食事をしてほしい」とのご意見を頂いた。コロナ禍において、少しでもリスクを減らしたいと考えているがグループホームとしての良さが失われることを防ぎたい。居室での食事介助者があるため、残る職員での見守りも必要。	コロナの収束を待つことなく、利用者と職員が共にテーブルを囲める環境を作りたい。	・今年度、アクリル板を購入しているので活用する。 ・居室での食事介助者があり、現状で利用者と職員と一緒に食事することは難しいと考える。週に1日(日曜日とか)職員もテーブルにつき、共にお茶を楽しむ。 12ヶ月
5				ヶ月